

【基礎編】第9回 自然な文脈で教える②:NBDIの実践

◆ 研修資料(受講者配布用) ◆

1. はじめに:理論を「使える技術」に変える

前回の研修では、子どもの興味・関心を起点に、自然な生活の中で学びを引き出す「NBDI」の理論について学びました。また、そのための土台として、学びの機会を創出する「環境設定」についても触れました。

今回は、その環境設定という「舞台」の上で、私たちがどのような「演技(関わり)」をすれば、子どもの自発的な学びを最大限に引き出せるのか、そのための具体的な実践テクニックを3つ、徹底的に学びます。

これらの技術は、皆さんの関わりを「ただの遊び相手」から「子どもの発達を促すプロのパートナー」へと変えるための、強力な武器となります。

2. 実践技術① モデリング:「やってみせる」ことで教える

- モデリング(Modeling)とは？
 - 支援者が、子どもに期待する行動(言葉や動作)を、分かりやすく「お手本」としてやってみせることです。子どもは、大人の真似をすること(模倣)で多くのことを学びます。
- なぜ有効か？
 - 言葉で説明されるよりも、実際に見る方が、子どもはずっと理解しやすいからです。
 - 成功体験をさせやすく、エラーレス・ラーニング(誤りなし学習)に繋がります。
- 効果的なモデリングのコツ
 1. 子どもの注意を引く:「見ててね」と声をかけたり、子どもの視線の先でモデルを見せたりする。
 2. シンプルに、分かりやすく:教えたい部分だけを、ゆっくり、はっきりと見せる。余計な言葉や動きは省く。
 3. 楽しい雰囲気:支援者が楽しそうにやってみせることで、子どもの「真似したい!」という気持ちを引き出す。
 4. 少しでも真似できたら、すかさず強化!:完璧でなくても、模倣しようとした意欲を褒め、行動の結果(おもちゃで遊べるなど)に繋がります。
- 【具体例】
 - 場面:子どもがミニカーをただ床に置いている。
 - 支援:支援者が隣で別のミニカーを手に取り、「ブブー!」と効果音を言いながら走らせてみせる(遊び方のモデル)。子どもが少しでも真似して走らせたら、「お!走ったね!速い速い!」と称賛する。
 - 場面:子どもがジュースの入ったコップを黙って差し出してくる。
 - 支援:支援者はコップを受け取らずに、にこやかに「ジュース、ちょうだい」と言ってみせる(要求言語のモデル)。子どもが「じゅー」など少しでも似た音を発したら、「はい、どうぞ!」とジュースを渡す。

3. 実践技術② タイムディレイ:「待つ」ことで自発性を引き出す

- タイムディレイ(**Time Delay**)とは？
 - 子どもが何かを要求している場面や、次に行うべき行動が明らかな場面で、支援者がすぐに手助け(プロンプト)をせず、数秒間(3～5秒が目安)意図的に「待つ」技術です。
- なぜ「待つ」ことが強力なのか？
 - 子どもが自分で考えて、自発的に行動する「間」を与えることができます。
 - 「あなたならできるよ」という、支援者からの期待と信頼のメッセージになります。
 - これまでプロンプトがないと行動できなかった子が、自立するきっかけになります。
- タイムディレイの使い方
 1. 子どもが何かをしたい、という明確なサインを発する。(例:ドアの前に行く、棚の上のおもちゃを指差す)
 2. 支援者は子どものそばに行き、期待を込めた表情(にこやか、少し首を傾げるなど)で、子どもの目を見て、黙って待ちます。
 3. もし子どもが自発的に言葉や行動を発したら、最大限の強化(「言えたね！すごい！」+要求を叶える)をします。
 4. 数秒待っても反応がなければ、モデリングなどの適切なプロンプトを与えます。
- 【具体例】
 - 場面:お散歩の時間。いつもは支援者が「くつく、履こうね」と言いながら靴を履かせている。
 - 支援:玄関で、子どもの前に靴を置く。そして、子どもの顔を見て、にこやかに5秒間待ってみる(タイムディレイ)。すると子どもが、自分で靴に手を出そうとする。すかさず「お！自分で履くんだね！すごい！」と褒め、必要であれば少し手伝う。

4. 実践技術③ インシデンタル・ティーチング:学びの連鎖を作る

- インシデンタル・ティーチング(**Incidental Teaching**)とは？
 - 日本語では「偶発的指導法」などと呼ばれます。これは、子どもが何かに興味を示した、その瞬間を逃さずに、より高度なスキル(二語文など)を教える、一連の流れを指します。
 - これまで学んだ、環境設定、モデリング、タイムディレイなどを組み合わせた、NBDIの集大成とも言える技術です。
- インシデンタル・ティーチングの「4つのステップ」
 1. 子どもが働きかける(**Initiation**)
 - 子どもが、物や活動に対して、自発的に興味を示す。(例:指を差す、手を伸ばす、単語を言う)
 2. 支援者がより豊かな表現を促す(**Elicitation**)
 - 支援者は、子どもの要求にすぐ応えず、タイムディレイを使ったり、「〇〇が、どうしたの？」のように、少しだけレベルの高い言語表現を促す質問(プロンプト)をしたりする。
 3. 子どもが応答する(**Response**)
 - 子どもが、自発的に、あるいは支援者のモデルを真似て、より豊かな表現で応答する。
 4. 支援者が自然な結果で強化する(**Reinforcement**)
 - 支援者は、子どもの表現を肯定的に繰り返し(「〇〇が欲しいんだね！」)、要求された物や活動へのアクセスを許可することで、その表現を強化する。
- 【具体例】

- 場面：自由遊びの時間、子どもが棚の上にあるボールを指差す。
 - 1. 子どもの働きかけ：子どもがボールを指差して「あ！」と言う。
 - 2. 支援者の促し：支援者はボールを指差し返し、にこやかに「うん、ボールだね。ボールが...？」と言って、期待して待つ（タイムディレイ＋言語モデル）。
 - 3. 子どもの応答：子どもが「とって」と言う。
 - 4. 支援者の強化：支援者は「そっか！ボール、とってね！よく言えました！」と言って、すぐにボールを取って渡す。
-

◆ 講師用原稿 ◆

(スライド1:タイトル)

「皆さん、こんにちは。研修第11回を始めます。今回は、NBDIの理論、つまり『なぜ自然な文脈で教えることが重要なのか』を学びました。皆さんの頭の中には、そのための『舞台設定(環境設定)』のアイデアが浮かんでいることと思います。

今日は、その舞台の上で私たちが演じるべき『名演技』、つまり、子どもの学びを最大限に引き出すための具体的な実践テクニックを学びます。理論を、明日から使える『技術』に変えていきましょう。」

(スライド2:実践技術① モデリング) 25分

「一つ目の技術は『モデリング』です。これは非常にシンプルで、かつ強力な技術です。私たちは皆、子どもの『モデル(お手本)』である、という意識を常に持つ必要があります。」

「(スライドの例を解説しながら)

ミニカーの例のように、私たちは遊び方のお手本を見せることができます。ジュースの例のように、言葉のお手本も見せることができます。さらには、お友達とトラブルになった時、『ごめんねって言うんだよ』と叱るのではなく、まず大人が『○○くん、さっきはごめんね』と謝る姿を見せる(ソーシャルスキルのモデル)こともできます。

(問いかけ) 皆さんが現場で、子どもたちの良い『お手本』になれるとしたら、どんな場面で、どんなことを見せてあげたいですか? ...そうですね、挨拶、片付け、優しい言葉遣い、すべてがモデリングの対象になります。」

(スライド3:実践技術② タイムディレイ) 30分

「二つ目の技術は『タイムディレイ』。これは、一言で言えば『愛ある沈黙』です。私たちは、良かれと思って、子どもが困る前にすぐに手や口を出してしまいがちです。しかし、その親切が、時として子どもの『自分で考える機会』を奪っているかもしれません。」

「タイムディレイは、支援者が『私はあなたを信じているよ。あなたならできるはず。ちょっと待ってね』というメッセージを、態度で示すことです。この数秒の『間』が、子どもの脳をフル回転させ、自発性を育むための、魔法の時間になります。」

「(ペアワーク)10分

では、この『待つ』ということが、いかに効果的で、いかに難しいかを体験してみましょう。ペアになって、一人が子ども役、一人が支援者役です。子ども役は、目の前にあるペンを取りたい、という素振りだけしてください。支援者役は、アイコンタクトをしながら、にこやかに、でも何も言わずに5秒間待ってみてください。その後、役割を交代します。」

「(ワーク後) どうでしたか? 子ども役の方は、5秒間どう感じましたか? 何か言わなきゃ、という気持ちになりませんでしたか? 支援者役の方は、何か言いたくなるのを我慢するのが、意外と難しくなかったですか? この『もどかしさ』を乗り越えた先に、子どもの自発性が花開きます。」

(スライド4:実践技術③ インシデンタル・ティーチング) 35分

「そして三つ目が、NBDIの集大成とも言える『インシデンタル・ティーチング』です。これは、子どもの『あっ!』という興味のサインを見逃さず、それをきっかけに、まるで会話のキャッチボールのように、より豊かなコミュニケーションへと発展させていく一連の流れです。」

「(スライドの4ステップを、ボールの例を使って丁寧に解説する)

この流れの素晴らしい点は、全てが子どもの『ボールで遊びたい』という強いモチベーションから始まっていることです。そして、最終的な強化子も、お菓子やシールではなく、『ボールで遊べる』という、行動と直結した自然な結果です。だからこそ、子どもは嫌がることなく、むしろ楽しみながら、新しい言葉の組み合わせ(『ボール、とって』)を学ぶことができるのです。」

(スライド5:グループワーク) 20分

「では、皆さんにこのインシデンタル・ティーチングの脚本を考えてもらいます。」

「(ワーク)場面設定:散歩の途中、子どもが道端に咲いているタンポポを見つけて、立ち止まり、指をさしました。

この後、インシデンタル・ティーチングの4ステップに沿って、支援者と子どもがどのようなやりとりを展開できるか、具体的なセリフを考え、グループで寸劇を作ってみてください。(10分程度)」

「(発表後)...どのグループも素晴らしいやりとりでしたね!『たんぽぽ、きれいだね』と子どもの気持ちを代弁したり、『たんぽぽ、どうする?』と次の行動を促したり。このように、子どもの小さな気づきを、豊かな言語経験に変えていく。これが私たちの専門性です。」

(スライド6:まとめ) 10分

「本日は、NBDIを実践するための3つのコア技術、モデリング、タイムディレイ、インシデンタル・ティーチングを学びました。

- モデリングで、正しい道筋を見せてあげて、
- タイムディレイで、子どもが自分で一歩を踏み出すのを待ち、
- インシデンタル・ティーチングで、その一歩をさらに次の一歩へと繋げていく。

これらの技術は、意識しないとただの『子守り』になってしまう自由遊びの時間を、すべて意図的で計画的な『療育』の時間へと昇華させてくれます。」

「次回は、特に『コミュニケーション』の支援に焦点を当てて、さらに具体的なアプローチを学んでいきます。今日学んだNBDIの技術が、その土台として大いに役立つはずです。

何か質問はありますか?(質疑応答)

...それでは、本日の研修はこれで終了です。お疲れ様でした。」